

盤石の体制で、掘り下げた直接支援を推進

社団法人被害者サポートセンターあいち（愛知県名古屋市）

盤石の連携体制で会を運営

被害者サポートセンターあちは、平成10年に設立、平成16年には公安委員会から犯罪被害者等早期援助団体に指定されている被害者支援団体である。名古屋市内、尾張地区、三河地区の県下全域を対象として直接支援を行っている。役員には、会長の高橋治朗（名古屋商工会議所副会頭）をはじめ、弁護士、臨床心理士、医師、大学教授、大手企業役員等が名前を連ねている。

「警察をはじめとするさまざまな機関との連携は、被害者支援を行う上で非常に重要な事です」（神戸さん）。警察本部から、事件発生後の早い段階で、事件内容や被害者の情報が入ってくる関係が出来ている。それにより、迅速に支援体制を整え、事件発生直後からの直接支援が可能となっている。また、被害者サポートセンターあいちの賛助会員年会費は、この経済不況の中、法人・



事務局長 神戸日次さん

個人会員とも減少こそしてきているが、愛知県、名古屋市、県警察等と連携して犯罪被害者支援活動（街頭広報活動・講演会・ボランティア育成講座等）を実施することによって、財政基盤の面から支援活動への影響を最小限に食い止めてきている。

愛知県臨床心理士会会長が歴代センターの理事である他、犯罪被害に精通した臨床心理士との連携も円滑であり、まさに盤石の連携体制で会の運営を行っている。



街頭での広報活動の様子

「泣き叫んでも良い」 遺族の話を出れる場所

交通事故被害者遺族自助グループ「命」の発足は、ある交通事故被害のご遺族が「周囲の人の何気ない言葉に傷つく、2次被害の現状を世間の人に知って欲しい」という思いから、2次被害をテーマとするオリジナル劇「おみやあさん このごろ どうしやーた？」を主催したことがきっかけ。

会は定例で毎月1回開催され、1～3名の交通事故被害者遺族が参加する。「参加される方からは、毎回、まだ傷口から血が出ているような生々しい話をお聞きします。しかし、会を重ねるごとに、だんだんと被害者の方の話が整理されていくのがわかります」（小島さん）。



支援活動調整員 足立和実さん

「何度同じ話をしても聞いてくれるので、自助グループへ行けば泣き叫んでも遺族の話を出れる、という心の拠り所にはなっていると思います」（足立さん）。現在、自助グループの運営は、被害者サポートセンターあいちが主体となり、開催場所の提供、ハガキや電話を通じての連絡等を行っている。また、会では、ファシリテーターとして話の進行、調整役を行っている。

（一般的に）自助グループでは、事件の大きさを比較してしまうなど、時にお互いを傷つけあってしまう事も起こり得る。そのような事態が起これぬよう、会のはじめに、

お互いを比較し合わないこと、批判はしないこと、話の最中に口をはさまないようにするなどの約束ごとを読み上げている。



自助グループのお部屋

「自助グループでは、話をしている人が、事件当時に感情を引き戻され、気持ちのコントロールが利かなくなることも少なくありません。それを、そばで支えるのが支援員の役割でもあります」（足立さん）。

「掘り下げた」直接支援の推進

「電話相談の件数が増えても、直接支援に結び付かなければ意味がない」（神戸さん）。という言葉からも伺えるように、被害者サポートセンターあいちでは、直接支援を重視した活動に力を入れている。平成21年では、電話相談件数265件のうち、半数以上の146件が直接支援に結び付いている。その内容は付き添い支援等だけにとどまらず、殺人事件の被害者ご遺族への命日訪問や、被害者の自宅を訪問しての司法制度に関する説明、事件現場のお花を枯れないうちに片付けたり、手紙を雨に濡れないようにお届けしたりと、まさに民間団体ならではの掘り下げたきめの細かい支援活動を推進している。

心のケアを行いやすい環境作りを

被害者サポートセンターあいちでは、愛知県警本部から委嘱された、4人の犯罪被害専門の臨床心理士と連携を取り、被害者の心のケアに取り組んでいる。

「多くの被害者、被害者遺族は、事件後の心のケアが必要です。特に、殺人事件のご遺族、目撃者等は、ほぼ100%の割合で臨床心理士のカウンセリングを必要とします」（神戸さん）。しかし、カウンセリングを受けることに抵抗がある方が少なくない。「カウンセリングを受けることが恥ずかしいことだ、といった感情を持っている方もおり、辛い気持ちを我慢し続けている人がまだまだ多くいます。我慢することにより、精神状態が悪化したり、PTSDを残すような結果にだけはしたくありません」（神戸さん）。



支援活動相談員 小島きぬ子さん

犯罪被害にあった方の多くは、カウンセリングを必要とする状況に陥る。早期に心のケア、危機介入をすることが必要であり、重要であるため、被害者からのアプローチを待つだけではなく、積極的に心のケアを行いたいが、積極的にケアを行うことがかえって被害者にとって負担になる可能性もあり、そのバランスは難しいという。

そんな思いから、被害者サポートセンターあいちでは、自宅から出られないような被害者には、自宅訪問によるカウンセリングも行うなど、被害者のニーズに沿った心のケアに取り組んでいる。



事務局の様子

「今後、各地域に臨床心理士を委嘱出来れば、更に被害者にとって利用しやすくなると思います。臨床心理士の施設や、市役所内等にカウンセリング場所を設けるなど、被害者、ご遺族の方がより心のケアを行いやすい環境作りを行っていきます」（神戸さん）。

連絡先

社団法人被害者サポートセンターあいち
〒460-0002 名古屋市中区丸の内二丁目14番21号
電話：052-232-7834 FAX：052-232-7834
URL：<http://www.higai7830.or.jp/>